

令和 8 年 5 月 15 日

# 要 望 書

静岡市長 難波喬司 様  
静岡市教育長 中村百見 様

静岡市立高等学校同窓会  
会 長 大 坪 義 武



## 静岡市立高等学校の存続について(要望)

日頃より静岡市立高等学校の運営、施設整備、教育環境の向上にご尽力頂き、同窓会を代表し心より御礼申し上げます。また、令和 7 年 12 月 9 日付で中村教育長様宛に提出いたしました「静岡市立高等学校の在り方検討に関すること」と題した要望書に沿った形で、今後の「市立高等学校の在り方」について検討して頂いた事も重ねて御礼申し上げます。

一方、3 月 31 日に難波市長、中村教育長による「静岡市立の高等学校の設置に関する将来の方向性」に関しての臨時記者会見が実施されましたが、その記者会見の席上、静岡市立の 2 高校を廃校・閉校し、2030 年を目標に新しい学校を新設するという方針が示されました。在校生、保護者、関係者に対する詳細な説明がなされておらず、特に廃校・閉校という言葉は、長年築き上げられてきた伝統やアイデンティティを断絶させる印象が強く在校生、卒業生、関係者、地域住民に深い困惑と不安が広がっています。

4 月 9 日にあらためて市長記者会見で、唐突な発表であったことについて謝罪され、詳細が示されたとはいえ、不安は未だ拭いきれておりません。こうした状況を踏まえ、今後の議論にはなりますが校地の選定、伝統の継承等について静岡市立高等学校同窓会として以下の通り、要望いたします。

## 記

### 1. 静岡市立高等学校の伝統継承、アイデンティティ確保に向けた校地、校名、校歌、校章の存続

・静岡市立第一中学校(現:静岡市立高等学校)は、昭和 14 年当時、市内に中学は一枚しかなく進学先不足に悩む静岡市民のために、当時の静岡市、静岡市民、静岡市議会が一丸となって立ち上がり創設されました。

市立中学の建設費の半分は市民の寄付を募り建設され、予定していた寄付金より多くの市民からの浄財が寄せられ、当時の市議会議員も積極的な支援態勢を市議会で決定し、一年分の歳費(報酬)を全額寄付したことが静岡市議会史に記されています。

当時の静岡市、市議会はたとえ負担は重くとも市民の理想にそのような学校をつくろうと身を削り、悲願だった市立中学の創設を実現されました。

現在までに約3万人を輩出するとともに、卒業生以外の静岡市民からも愛され「いちこう」の名称で親しまれており、名実ともに静岡市民の高校として現在に至っています。こうした先人の苦労や思いが詰まった伝統は継承していかなばなりません。

静岡市立高等学校の校地は、静岡地区、清庵地区からも通いやすい立地であり、文教地区でもあります。さらにこの地で90年近く市民や地域に愛され、市民の手で築かれてきた高校であります。まさに市高卒業生だけでなく、静岡市民にとってもアイデンティティそのものであります。そのために校地は、現在の静岡市葵区千代田の静岡市立高等学校を活用すると共に、高校名は静岡市立高等学校、中学校名は静岡市立高等学校・中等部として校名、校歌、校章の存続を要望いたします。

・教育環境のさらなる向上を図るために、一学年の生徒数については、静岡県が示す適正規模(240人~320人)を勘案しながら、活力ある学校運営と部活動の維持・存続を可能とするような定員の確保を要望

いたします。

・特に部活動は、全国大会にも出場する部活動が多数存在し、伝統が受け継がれ、決してなくしてはならない市民の思いが詰まった存在で、生徒にとってもかけがえない活動であり、小・中学生のあこがれになっていることから維持・存続だけでなく更なる発展をさせるよう、要望いたします。

・地域と密接につながっている現有校舎、体育館、鴻志会館、格技場、小グラウンド等の学校施設の継続的利活用や校地上の歴史的建造物（有形文化財である田安門等）や記念事業による設置物（一中一期から今年の卒業生を含む卒業生の名前が刻まれた銘板等）は、総じて市高のアイデンティティそのものであり、保存に留意されることを要望いたします。

## 2. 在校生・保護者・同窓会等への丁寧な説明の早期実施

・静岡市立高等学校は、令和7年度の国公立大学現役合格者数が過去最多の186名を記録しました。県内国公立4大学への合格者も70名にのぼり、卒業生の約92%が4年制大学へ進学するなど、市内トップ校に比肩する優れた進学実績を残しています。

その有意性は客観的にも評価されており、民間調査の「30代が子どもを入学させたい県内公立高校ランキング」では県内2位に選出されています。また、部活動においても多くの部が全国大会に出場するなど、名実ともに「文武両道」を体現し、すでに「選ばれる学校」としての地位を確立しております。

一方、本市で検討されている「新しい静岡市立の学校」においては、未来の静岡を創る人材育成を目指し、さらなる進化が期待されています。つきましては、中高一貫校としての「基本理念」や「基本方針」、および魅力的な学校づくりのプロセスについて、在校生、保護者、同窓会、小中学校を含む学校関係者、そして市民に対し、早期に丁寧な説明を実施されるよう要望いたします。

・令和8年度の新入生や在校生にとっては、自分の入学した学校が数年後には廃校・閉校になるということが突然示されたため、新入生、在校生、保護者の不安を解消するような説明会や個別相談会を十分な回数で、かつ保護者等に配慮した時間設定で早期に実施すると共に、教育現場の教職員や関係者を含め、移行計画や留意点など十分な説明を行うよう要望いたします。

・「廃校」「閉校」といった市長の言葉から、来年度以降の市高受験を控える中学生が一定程度出てくるものと考えられることから、本年6月より開始される学校説明会においては特段の配慮を要望いたします。

・次年度以降に志願予定の中学生や保護者に対しても、希望を持って入学できるように今後の静岡市立の高等学校がいつまで募集を行い、どのようなプロセスをたどり新設移行するのか、部活動の存続スキーム等も含めて丁寧な説明と情報発信を要望いたします。

## 3. 関係者からの意見聴取、意思決定プロセスの透明化、着実な合意形成

・在校生、保護者、教員、同窓会といった学校関係者の意向を真摯に汲み取り、丁寧な意見聴取を行い、未だ合意に至っていない事項を先行して公式発表することは避け、県との協議状況や検討のプロセスを適宜報告するなど、意思決定プロセスの透明化を図り、十分な情報共有を行いながら、着実な合意形成を図るよう、要望いたします。

・今後、議論する場が設けられるのであれば、議論する事項の早期開示と共に、行政だけでなく、市民、学校関係者、同窓会代表そして静岡県教育委員会をメンバーに加えることを要望いたします。

また関係者による十分な意見聴取とプロセスを重視し、校地、校名、再編計画等の審議事項の明確化を図り、一方的な決定ではなく、県、市、関係者が一体となり着実な合意形成を図り、当事者の声をしっかりと反映させ、時間をかけて丁寧な議論を重ねることで在校生、保護者、地域住民が真に納得できる合意形成を図ることを要望いたします。